



2026年3月学校給食支援活動報告

<今月のインパクト>

▶学校給食

- ・提供給食数：315,570食
- ・支援対象児童数：20,230人

▶主な成果

- ・給食提供を通じた高い登校意欲の維持
- ・地域ボランティア主体による運営の継続と強化
- ・JICAボランティア来訪による国際交流の促進
- ・衛生習慣（手洗い等）の定着

▶主な課題

- ・安全な水へのアクセス不足（継続課題）
- ・給食準備における水確保の負担
- ・一部地域における出席率の低下

<今月の変化>

・地域主体の給食運営の継続

ボランティアによる日々の給食準備が継続され、厳しい環境下でも安定した給食提供が維持されています。

・子どもたちの生活への直接的な影響

給食が「1日唯一の温かい食事」となっている子どもも多く、登校意欲の向上と生活の安定に寄与しています。

・衛生習慣の定着

食事前の手洗いが日常的な習慣として定着し、子どもたちの健康管理意識の向上が見られます。

・国際交流の促進

JICAボランティアの訪問により、子どもたちとの交流が生まれ、学びや体験の幅が広がりました。

・出席状況の変化

全体の出席数は維持されている一方、一部地域では出席率に変動が見られ、継続的なモニタリングが必要です。

<現場の事例>

1. Mpotola CBCC

給食提供と水資源の課題



本CBCCでは、地域ボランティアが中心となり、日々の給食提供が継続されています。子どもたちは給食を目的に意欲的に登校しており、安定した食事提供が生活の一部となっています。

一方で、安全な水へのアクセスが確保されておらず、川からの水汲みや簡易的なろ過装置を用いるなど、給食準備には多くの労力が必要となっています。水質および供給の安定性には依然として課題があり、衛生面への影響も懸念されます。

給食は一部の子どもにとって貴重な食事機会となっており、栄養面および生活の安定に寄与しています。

2. Mwayi CBCC

給食による学習意欲の向上



本CBCCでは、給食提供により子どもたちの集中力や活動意欲の向上が確認されています。

食事後の子どもたちは活発に活動し、学習への参加姿勢にも改善が見られます。給食は、身体的成長だけでなく、学習環境の整備にも寄与しています。

3. Tivwirane Nursery school

外部人材との関わりによる教育機会の拡充



JICAボランティアの訪問により、子どもたちとの交流機会が創出されました。

子どもたちは安心した環境の中で積極的にコミュニケーションを取り、日常の経験や給食に関する体験を共有する様子が見られました。本取り組みは、教育機会の多様化に寄与しています。

4. Tikwere Nursery school

交流活動を通じた社会性の育成



外部訪問者との交流を通じて、子どもたちは他者との関わり方を学ぶ機会を得ています。

異なる文化的背景を持つ人々との接触は、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力の向上につながっています。

5. Watipa Nursery school

衛生習慣と規律意識の定着



本園では、給食前の手洗いが日常的な習慣として定着しています。保育者の工夫により、子どもたちは自然な形で衛生行動を実践しています。

また、給食時には落ち着いた行動が見られ、規律や食事への意識の向上が確認されています。これらは日常生活習慣の形成に寄与しています。

6. Chiutsa Ndeu CBCC

地域主体による運営体制



本CBCCでは、地域ボランティアが主体となり施設運営が行われています。授業料は無料であり、地域の支えによって教育機会が維持されています。

給食提供は子どもたちの登校動機として機能しており、地域全体で子どもたちを支える体制が形成されています。

7. ブランタイヤ事務所

外部連携の強化



JICAボランティアの訪問により、給食支援活動に対する理解が深まりました。外部関係者との連携は、活動の可視化および今後の支援拡大に向けた重要な要素となっています。

給食支援データ（3月）

合計支援給食数：315,570食

北部ムジンバ地区：277,387食

南部ブランタイヤ地区：38,183食

地区	登録数 (男子)	登録数 (女子)	合計登録数	出席数 (男子)	出席数 (女子)	合計出席数
ムジンバ	8,676人	9,007人	17,683人	8,055人	8,171人	16,226人
ブランタイヤ	1,149人	1,397人	2,547人	861人	957人	1,818人
合計	9,825人	10,404人	20,230人	8,916人	9,128人	18,044人

出席率

全体：約89%

ムジンバ：約92%/ブランタイヤ：約71%

→ 一部地域で出席率の低下が見られるが、給食は引き続き登校の重要な動機となっている

男女比

男子9,825人/女子10,404人

→ 男女ともにバランスの取れた支援が継続されている

<今後の支援の方向性>

- ・安全な水の確保（井戸の改修・新設）
- ・給食提供に必要な基盤（水・衛生環境）の強化
- ・出席率の低下が見られる地域への重点的対応
- ・地域主体の運営体制のさらなる支援
- ・国際連携・交流機会の継続的な創出